

持続可能な地域活動援助モデル構築事業

(母子生活支援施設等福祉施設のアセット活用)

	団体名	所在地	事業名	事業概要
No.01	特定非営利活動法人SAVE FOOD	東京都	Meals on Wheels 子供居場所づくり	<p>NPO法人SAVE FOODは外食業界の食品ロスを削減する事に至って、廃棄予定、未だ食べられる食品を再利用して需要がある所に分配します。コロナ渦の中、多くの家庭が収入減少等の影響を受けて、地域からの支援を必要になりました。2020年夏から港区子供食堂ネットワークに参入して、子供食堂事業をやり始めて、寄付して貰った食材を食堂で提供していました。保存食や乾麺等の食材の場合はパントリーで配りました。この様にして来て、食品ロスを避けて、廃棄する前に貧困家庭に食材を提供して、食費に支援する役目立つ事は一石二鳥になります。子供居場所を設けて、課題を抱える子どもに勉強できる環境を提供し、地域に働きたい人達にも助言サービスを紹介し、そして、安心、安全に暮らせるコミュニティをつくりたいです。</p>
No.02	社会福祉法人ベタニヤホーム	東京都	ベタニヤホーム アウトリーチパントリープロジェクト	<p>母子生活支援施設ベタニヤホームでは、施設の建て替えにより1階のフロアを全面的に地域交流スペースとした。計画ではこのホールで地域で暮らす母子家庭への食支援をパントリーという形で実施するためNPO法人セカンドハーベストジャパンと打ち合わせを重ねてきた。しかしながらコロナ禍により地域住民の施設への立ち入りができなくなったため、アフターケアとして退所家庭への食品配布を昨年度から実施している。</p> <p>地域で暮らす母子家庭には、施設を配布拠点とした食品配布を行うと共に、継続的に支援した母子家庭が施設で食支援のボランティアとして活動できる機会の創出を計画しているが、施設における感染防止のため、開始時期はコロナ禍の収束を待ちながらも、タイミングを見て小規模な展開を実施する。</p>
No.03	特定非営利活動法人 フードバンク香川	香川県	職を通じた地域における支え合いの仕組みづくり	<p>1 地域住民と連携 住民の所有する空きスペースに冷凍冷蔵庫を設置。住民の協力により食材管理や食材の受け渡しを行い、地域におけるゆるやかなつながりをつくる。受け渡しの調整や光熱は当団体で実施。</p> <p>2 母子生活支援施設と関連のある障害者施設（カフェ運営）と連携 上記施設に冷凍冷蔵設備を設置し、気軽に地域住民が食材の寄付を行ったり、食糧支援を必要としている人や支援団体が受取りを行うことのできる環境を整備する。食材管理は障害者施設と当会が連携して行い、フードロス削減に努める。光熱水費は当団体が負担。</p> <p>3 運送会社との連携 運送会社の倉庫及び冷凍冷蔵庫の空スペースを間借りし、食糧の受取、配付の拠点とする。現地での受取が困難な場合には、運送会社へ依頼し、配送する。送料は当団体負担。光熱水費は運送会社負担。</p>

No.04	特定非営利活動法人 ワーカーズコレクティブういず	千葉県	つないで支える地域の輪、子ども食堂の輪	<p>子ども食堂等の居場所事業を行う団体や施設とのネットワークの形成。 子ども食堂等の居場所事業を行う団体や施設への食材の配布や保管管理。 子ども食堂等の居場所事業を行う団体や施設のコロナ禍での困りごとや課題を拾う。</p>
No.05	社会福祉法人 大幸会	福岡県	<p>子どもの未来を守るプロジェクト ～C（こどもの）・M（未来を）・M（守る）・P（プロジェクト）～</p>	<p>母子生活支援施設の機能を活用したアウトリーチ事業 県内の実行団体（子ども食堂・こどもの居場所づくり団体）との連携及び支援事業 地域の社会福祉協議会・スクールソーシャルワーカーとの連携の枠組みづくり 県内のロジ拠点の開拓と施設を活用したハブ拠点機能（サンフラワー・京築、くぬぎの里） 施設による「子ども食堂」の実施（SUN SUN 子ども食堂・かたらんね・キラっと☆食堂） プロジェクトの広報・啓発活動</p>
No.06	学習支援ひろば「くじら寺子屋」	沖縄県	フードくじら	<p>コロナの影響で困窮している家庭、ひとり親家庭、多子家庭の方たちに食料品を受け渡す。 月1回第3火曜日 12月と1月だけは月2回第1火曜日と第3火曜日に受け渡し日を設定。 沖縄県ランチサポートとオリオンペーカリーの協力により毎週月曜日と金曜日は個包装のパンの配布ならびに寄贈された食料品の配布。小中学校の給食が無い登校日に無料のお弁当配布。夏休み中の無料のお弁当配布を行う。 昨年度実施した結果、食糧受取希望者と無料のお弁当受取希望者が異なるニーズを持っている場合がある。特に無料のお弁当希望の家庭の中には、日常的に食事の回数が少ないことがあり児童にとって必要である。対して、食糧の受け取り希望の家庭は経済的困窮が見られる。よってどちらの活動も必要である</p>
No.07	ココロにたねまき	神奈川県	横浜共一ロジネットデザイン	<p>パントリーでは課題を抱えている可能性が高い対象者に対し、支援品受渡し時のさりげない会話から近況の聞き取りを実施し、必要があれば中間支援施設へ報告し、そこから社会福祉協議会や行政へと情報を繋ぐ連携体制を構築しています。 先日、フードバンクからお預かりした支援品を母子生活支援施設へお届けした際に、現在の支援物資の提供状況を伺ったところ、このところ個人的に施設へ物資を配送してくれる企業があきらかに減り、限られた人数で運営している事に加え運転免許取得者が限定的である事から、フードバンク等に受取りに行く事も困難であり、継続的な支援物資の取得に課題があると伺いました。また、同母子生活支援施設は中間支援施設の取りまとめで地域連携事業として上記とは別の2団体と子ども食堂の共催している事から、その状況をお伺いしたところ、食堂の運営を継続する為、食料品の提供先を模索しているとの事でしたので、現在可能な限りそちらにもフードバンクからお預かりした支援品をお届けしております。しかしながら、この地域の社会的不利益の中にある方達を支援している団体を支援し続ける環境としては、当団体が現在保有する冷蔵・冷凍設備では明らかに保管能力が足りておらず、課題があるのが現状です。</p>